

●議題総合戦略の検証

ア. 総合戦略の取組状況について・・・資料1

《質疑・意見》

○（委員）

観光の KPI に関して、中心市街地観光客数（6 観光施設）及び観光客数（年間）の数値だが、順調に推移している。令和 5 年度はアフターコロナ時代となるので、どのくらい伸びていくのか非常に楽しみである。しかし、両 KPI を比較してみると、中心市街地観光客数の伸びが今一である。

大分県としては、竹田を拠点に活動している DRUM TAO の知名度を活かし、中心市街地の誘客事業に取り組んでいる。今後も商工観光課やツーリズム協会等関係団体に協力いただきながら、効果を出していきたい。

これに関連して、円安が今進んでいる中で、海外旅行は非常に割高感があり、国内回帰という動きが見えている。円安の影響で、5 類移行で追い風になっていると思う。

そのような中で、熊本県に、TSMC が進出することによって台湾の事業、熊本空港発着する台湾直行便が報道されているが、こういった観光客の取り込み、国内外の、取り込みに対して、誘客戦略などを設けて、何か取り組みをする予定があるのか。

もう一つ、今観光地は、オーバーツーリズムというふうに言われている。要は人材不足ということだと思う。

竹田市の中に、こういった事例があるのかは、勉強不足だが、満室を取れる需要がありながら、人材不足でチャンスロスをしているというようなことが、あるのか教えてほしい。

観光業は、稼いでいかないといけない。お金を稼げる観光産業への発展というところを検討する余地があると思う。

⇒（事務局）

ご指摘の通り、観光客数も随分増えて戻ってきた。インバウンドもだんだんと、姿を見かけるようになってきている。

誘客戦略としては、インバウンド対策、訪日外国人の誘客対策事業として、今年度駅の改修を計画している。その際に、多言語活用の部分で、デジタルサイネージとか、駅を中心として、市街地に周遊できるように、電動自転車等を導入する予定。

また、駅の案内所を外国人向けにも対応できるよう集約する。

T S M C に関しては、観光誘客の対策としての事業を展開していく。

オーバーツーリズム・人材確保に関しては、明確な数字をつかんでいないが、市全体的に人材確保が難しい、人材が足りないというところの現状は把握している。

○（委員）

総合戦略の基本目標は、大きく四つに分けられ、指標が 63 指標ある。コロナ前に策定された計画の中で、目標達成率を見ると、大変順調に進んでいる。

今年で、残すところ 2 年であるが、目標達成率がゼロのところがある。

特に、女性の活躍ワストップ窓口を通じた就職者数（累計）の数字として「0」というのは、見せ方として問題があるのではないか。

女性活躍が推進されると、その地域も活性化するというデータも出ているので、ぜひ竹田市の方でも、活躍推進の場を考えていただきたい。

⇒（事務局）

委員ご指摘の通り、この「0」という指標に関して、KPIの設定が甘かったと理解している。

農政課や観光課の取組みの中で、女性活躍の取組みをしている。その成果が図れる指標を今後検討する。

イ. 交付金事業の実績について・・・・・・・・資料2

○（委員）

祖母山麓エリア再生プロジェクトのサイトは、日本語だけだと思うが、外国人観光客の方にも見てもらえる対策を考えているのか。

この素晴らしい祖母山麓エリアをぜひ外国人インバウンドのお客様に見ていただきたいと思っている。

⇒（事務局）

インバウンドを誘客する中で、祖母山麓エリアまでの交通アクセスがやはり課題となる。登山口へのアクセスについては、駅からカモシカ号並びにタクシーでの移動となる。その辺りも外国の方にも、わかりやすく、アクセスできるように進めていければと思う。そういった意味では、先ほど説明した駅からの周辺への繋がりというところで、インバウンド対策をしっかりと進めていく。

○（委員）

ICT 人材育成事業について、総合戦略の説明の中で、女性の働き方の説明があった。子育て中のママさんにとって、どこでも働ける仕事はありがたいと思うが、ノーコードセミナーのママさんの反応を教えてください。

また、仕事としての可能性をどう分析しているか教えてください。

また、受講された商店街の皆さんの反応も教えてください。

⇒（事務局）

まず参加されたママさんの感想については、仕事のスキル講座ということで、具体的な仕事がイメージできたという声をいただいた。

それから、このスキルを活かして、子育て、介護の合間等時間を活用した働き方、副業などに向けて働きたいニーズがあるということ、把握することができた。

ただ、講座をしたところ、やはりただスキルを身につけただけでは、そのシステムを使うことにしかな

らず、実際仕事にしていこうと思うと、さらにスキルアップしていくことが必要。

それから、仕事としての可能性という事で、個々で仕事を受けられるようになるには、出口のところを、サポートしていかないといけないと思う。例えば、人材バンクを作って、仕事を受けて、女性たちに、仕事を発注するという仕組みづくりも必要ではないかなと思う。

最後に、受講された商店街の感想だが、やはり商店街の方々、なかなか自分たちで仕事の合間を見ながら、DX化IT化を進めていくというのは、時間が足りないなということで、サポートしてくれるスキルを持った人が地域にいる方が助かるという声があった。

○（委員）

・祖母山麓エリア再生プロジェクトについて、ユネスコエコパークに認定後、重点的に取り組んでいる重要な事業だと思う。このエリアをブランディングし、プロモーションする上で、このエリアを他のエリアとどのように差別化し売り出していくのか？このエリアの魅力をどのように分析しているか？

⇒（事務局）

祖母山麓エリアの魅力、特に強みは、事業エリアである入田・宮砥・姫岳の住民の方が、主体的にこの地域の振興や自然保全活動にこれまでずっと関わってきたこと。

他のエリアと比べても、取り組む姿勢が高い。そういった方々が地域でも継承され幅広く活動をしている。さらに、活用できる拠点施設が2施設あるというところも、この地域の魅力である。

実際エリア内には宿泊、並びに民宿サービスを提供できる施設もある。

そういった施設の利活用も、この地域の財産として、きちんと利活用を考えていければなというふうに思っている。

ウ. 企業版ふるさと納税の取組みについて・・資料3

○（委員）

企業版ふるさと納税ということで、今後も引き続き、がんばっていただきたい。

先ほどから出ているように、熊本のTSMCが来年12月に開業し、チャンスだと思う。

その時に滝室坂トンネルも同じころ、開通予定だという情報も聞いている。これが開通すれば実際、熊本竹田間を1時間くらいで行けるかなと思う。

TSMCは新聞報道等でも、工場進出以外にも、住宅整理とか、雇用とか、様々な費用対効果が4兆円以上という試算もでていっている。工場の建設には一日当たり、5千人以上、来年の12月の創業時には1700人の人事雇用が見込まれていて、そのうち300人は台湾人と聞いている。大きな人の流れが生じれば、住宅の問題も必ず出てくるが、竹田市の近隣の阿蘇市にも効果が出てきている。

道の駅阿蘇の横には外資系のホテルが建設され、観光に関してはもう、すぐ近くまで大きな需要が迫っていると思う。

台湾から来る、TSMCの従業員は来年の12月で、300人と聞いているが、当然家族も一緒に来るので、倍以上の方が来られて、どこかに住むと思う。

その方たちが、必ず近隣の竹田市に観光に来てくれると思う。

TSMCの方が仮に竹田市に来た時に、2回目3回目来るようにするためにはどうしたらよいか。

永遠のテーマである、宿泊施設と飲食店の不足を解消しないと、1回だけで終わってしまう可能性が高いと思う。

空き家対策事業も一緒にすれば一石二鳥となる。空き家対策にもなるし、観光客の誘客にもつながることも期待できると思う。積極的に進めていけばいい。

⇒（事務局）

中九州横断道路もやがて熊本まで繋がれば、当然戦略を持たないといけない。観光面を含め、いろんな可能性をイメージ検討し、戦略を練り上げていきたいと思う。しっかりアンテナを張って、対応していきたい。